

「宮浦小学校の楠川盆踊り・おた踊り・榊川盆踊り」伝承活動の取組

1 学校名

屋久島町立宮浦小学校

2 学年・人数

5年生（計53人）

3 場所・日時

（1）練習の日時・場所

総合的な学習の時間（10月～11月） 小学校体育館

（2）発表の日時・場所

11月14日（水） 学習発表会 小学校体育館

12月 1日（土） 県PTA活動研究委嘱公開（オープニング）小学校体育館

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事や史跡について

（1）名称

ア 楠川盆踊り（楠川地区）（くすがわぼんおどり）

イ おた踊り（宮之浦地区）（おたおどり）

ウ 榊川盆踊り（榊川地区）（たぶかわぼんおどり）

※ 校区内3地区にそれぞれの民俗芸能があるため，児童に希望を取り，自ら取り組む民俗芸能を選択している。

（2）由来

ア 楠川盆踊り

楠川盆踊りは，8月13日・15日・16日に行われ，13日は精霊迎えのためお寺で踊り，15日は神社に奉納し，16日には初盆の家々を回る。いつごろから踊られたのか明らかではないが，踊りの内容から，小瀬田や宮之浦とは別の系統と考えられ，現在も楠川地区の盆行事の中心となり，深く根をおろした民俗芸能と言える。保存会は，区の役員，青年・高校生・中学生と幅広い年齢層で構成されている。

イ おた踊り

由来は定かではないが，先回し唄や笠踊り・ナギナタ踊りは五穀豊穡を，扇子踊りと四ツ竹踊りは大漁祈願的な性格が強く見られ，本来精霊的な意味が強い盆踊りの中で，豊穡・豊漁を願ったものが演じられている。

かつては，宮之浦地区青年団が伝承していたが，現在では青年団OBを中心に青年団や生徒も含めた保存会により伝承され，お盆行事として地区内2か所でおた踊りを披露している。

ウ 梶川盆踊り

梶川盆踊りの由来も定かではないが、青年男子により古くから踊り伝えられている。

8月15日の昼過ぎから夕方にかけて踊られる。まず神社に奉納し、次に町エビス、サワラ様、漁エビス、お寺、区長の家、初盆を迎える家で踊られ、夕方最後に墓所で踊る。

盆踊りを奉納する場所から、精霊迎えの性格と豊穰や豊漁を祈願し、また無事息災を祈願する性格が合わさった盆踊りとなっているようである。

(3) 構成等

それぞれの民俗芸能が複数の踊りで構成されているため、それぞれ2～3の踊りの指導を受け、取り組んでいる。今年度は、次のとおりである。

ア 楠川盆踊り 18人（唄、小太鼓、先回し、四ツ竹踊り、松島踊り）

踊りは、先回し(入場)、四ツ竹踊り、松島踊り、落平(おてんだ 扇子踊り)、手踊り、笠踊り、伊勢音頭の7部で構成されている。歌詞は、浄瑠璃物、伊勢音頭、琉球系と多様で、長崎県松島が出てくるかと思えば、鹿児島が出てくるなど屋久島の地理的位置をはっきりと表す民俗芸能と言える。

イ おた踊り 18人（唄、小太鼓、四ツ竹踊り、扇子踊り）

宮之浦盆踊りは「おた踊り」と呼ばれ、8月13日にお寺や初盆の家々を踊り伝えられてきた民俗芸能で、先回し(入場)、扇子踊り、笠踊り、四ツ竹踊り、銭壺踊り、ナギナタ踊りの6つの唄と踊りで構成されている。

ウ 梶川盆踊り 17人（唄、四ツ竹踊り、棒踊り、小太鼓は保存会）

梶川盆踊りは、先回し(入場)、手踊り、扇子踊り、四ツ竹踊り、棒踊りの5つの唄と踊りで構成され、踊られる。

5 保存会や地域との連携の具体

- (1) 楠川盆踊り保存会
- (2) 宮之浦おた踊り保存会
- (3) 梶川行事保存会

例年、保存会の方から、由来、歌詞の説明や踊り方などの指導をしていただいている。

学習発表会の時期になると保存会の方々が、児童生徒に一つ一つの動きを丁寧に指導・育成に当たっている。発表会当日は、保存会、保護者の方々の協力を得て、着付けやその他準備も行っている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

校区に古くから伝わる3地区の民俗芸能の存在や由来を知り、郷土の伝統と文化への理解を深めている。

保存会には一連の動きの確認や細かい動作等を指導していただいております、必要に応じて当日の囃子などにも協力をいただくこともあります。

例年、保存会の指導稽古の他、昼休み時間を利用するなどした生徒たちの自主的な練習が行われている。

7 取組の様子



11月14日 学習発表会の様子①

○楠川盆踊り（松島踊り）



11月14日 学習発表会の様子②

○おた踊り（四ツ竹踊り）



11月14日 学習発表会の様子③

○榊川盆踊り（棒踊り）

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

(1) 児童から

- ・ 練習は大変だったけど、みんなで力を合わせることができて楽しかったです。本番は緊張しましたが、がんばって踊れました。
- ・ 今回、初めて郷土の踊りを練習しました。ぼくがした踊りと違う踊りも練習したいと思いました。

(2) 保護者から

- ・ 運動会後から、伝承活動の練習に入り、家庭や学校外でも習った唄や踊りの復習をしていました。
- ・ 初めのうちは、歌詞もうろ覚えで、また恥ずかしさもあるため、踊りも小さく合わせるのもほとんど出来ないようでしたが、みんなで集まって歌を覚えたり、踊りの合わせを重ねているうちに、どんどん上手になっていく姿を見ることができました。

(3) 保存会から

- ・ 以前から、地域の行事（神社大祭や敬老会など）では、児童を募って、練習し披露する取組もしている。学校において5年生の全児童が、校区内3つの踊りの伝承活動に取り組んでいることは、たいへんすばらしく意義深いと思います。